

商学部における特色ある学部教育の補助「国内実態調査」 報告書

テーマ	沖縄の地域産業とスモールビジネス・地域創生に関する実態調査									
科目名	演習Ⅰ・Ⅱ									
担当教員	砂川 和範									
調査先	第48回沖縄の産業まつり（沖縄国際大学と合同）									
調査期間	2025年10月24日				～	2025年10月27日				
参加学生数	1年生	名	2年生	名	3年11	名	4年生	名		

調査の趣旨（目的）
砂川ゼミでは、スモールビジネス、起業家精神、地域創生を主要テーマとしている。本調査では、沖縄県内最大の総合産業展であり毎年約30万人が来場する「沖縄の産業まつり」（第48回）を対象に、県内の第一次～第三次産業（農林水産・工業・商業サービス業）が一堂に会する場において、地域製品の販路拡大、地元事業者による発信、県産品の認知促進、文化芸能の継承といった多面的機能を実地に観察することを目的とした。あわせて、現地で合同調査を行う沖縄国際大学・髭白ゼミと打ち合わせ・交流会・成果報告会を実施し、他大学ゼミとの協働を通じて調査の質を高めるとともに、年度内に予定する合同ゼミ大会への発表準備に資することをねらいとした。
調査結果
実施計画のとおり、2025年10月24日から27日にかけて沖縄国際大学・髭白ゼミとの合同で実施する予定であった。初日は那覇空港に集合し、ゼミ内で調査計画と役割分担を確認した。二日目は一部の学生に関わる事案が生じたため、学部長および教務主任と緊密に連絡を取りながら対応した。沖縄在住の心理カウンセラーである国生氏に来訪いただき、当該学生のケアを行った。ケアを希望した学生を除く参加学生については、聞き取り調査後、予定どおり「沖縄の産業まつり」におけるフィールドワークを実施した。なお教員と一部学生は沖縄国際大学を訪問し、髭白ゼミと合同の打ち合わせ・交流会・懇親会を行い、調査の視点と項目をすり合わせた。「沖縄の産業まつり」会場において、特産品・工芸品・食品ブース、体験型コーナー、ステージイベント等を対象に、出展事業者への聞き取りと観察調査を実施し、終了後に調査結果の共有を行った。参加学生は、地域産業の担い手である中小事業者が、限られた経営資源のもとでいかに商品に価値を付与し、県内外の市場へ販路を広げているかを具体的に把握するとともに、地産地消・地域振興の政策的意義と、地元文化の発信・継承の場としての産業まつりの役割について理解を深め、合同ゼミ大会での発表および日常のゼミ学習に向けた有益な素材と問題関心を得た。